

# 中学校 美術科

## 1. 美術科における学習評価の基本的な考え方

美術科では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成していくことが大切です。美術科でも、学習指導要領に示された内容を、そのまま単元の目標や評価規準として設定することが可能です。今回の改訂の美術科における「知識及び技能」のうち「知識」とは、**【共通事項】(1)ア、イ**のことであり、3年間をかけて、**実感をもって理解させ、造形的な視点に結びつける**ことが必要です。身に付けた知識を表現や鑑賞の活動に生かせるかが大切であり、作家名や技法などを暗記させることは、「知識」にはあたりません。

## 2. 中学校美術科の学習評価の事例

中学校美術科の「内容のまとめり」は、右表の通り3つに分けられています。なお、表現の活動を行う際は、鑑賞の活動を関連させて行うことがほとんどで、その場合は、①と③または②と③の組合せで内容のまとめりを併記します。独立した鑑賞の活動を行う際は、内容のまとめりは③のみを示します。この内容のまとめりを踏まえた学習評価の事例を、第1学年「感じ取ったことや考えたことを基にした表現」の事例で説明します。

「内容のまとめり」	指導事項
①「感じ取ったことや考えたことを基にした表現」	『A 表現』(1)ア(2) 〔共通事項〕
②「目的や機能などを考えた表現」	『A 表現』(1)イ(2) 〔共通事項〕
③「作品や美術文化などの鑑賞」	『B 鑑賞』、〔共通事項〕

### 例 第1学年「花の命を感じて」

#### 題材の概要

花を見つめ、感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、全体と部分などの関係を考え創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。水彩絵の具の基本的な使い方を身に付けるとともに、様々な表現方法を試しながらその効果を生かし、発想や構想をしたことを基に自分の表したい花を工夫して表す。また、完成した生徒同士の作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。

#### 内容のまとめり

第1学年「感じ取ったことや考えたことを基にした表現」（「A 表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、〔共通事項〕(1)アイ）及び「作品や美術文化などの鑑賞」（「B 鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)アイ）

#### 学習指導要領と評価の観点との関連

領域等	項目と育成する資質・能力との関係	評価の観点
A 表現	(1)発想や構想に関する資質・能力	「思考・判断・表現」
	(2)技能に関する資質・能力	「知識・技能」(技能)
B 鑑賞	(1)鑑賞に関する資質・能力	「思考・判断・表現」
(共通事項)	(1)造形的な視点を豊かにするための知識	「知識・技能」(知識)

「A 表現」(2)ア(イ)＝「制作の順序などを考えながら、見直しをもって表すこと」は、本題材では、**制作の過程で表したいことや、発想や構想が変化していくため、あえて内容のまとめりに入れていない。**

### (1)題材の目標の設定

「題材の概要」で設定した具体的な内容に合わせて、「内容のまとめり」に応じた学習指導要領の第1学年の目標や内容を下線部のように置き換えることで、題材の目標を設定することができる。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、 <u>美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解する。</u> （〔共通事項〕） 第1学年の〔共通事項〕(1)のアとイにあたる2つの文を基にして、1つにまとめて表記する。 ○水彩絵の具や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。（「A 表現」(2)ア(ア)）	○花を見つめ感じ取ったことや形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、 <u>画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。</u> （「A 表現」(1)ア(ア)） ○造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、 <u>見方や感じ方を広げる。</u> （「B 鑑賞」(1)）	○美術の創造活動の喜びを味わい、 <u>楽しく花の美しさや生命感などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。</u> 学習指導要領の「内容」には、 <u>学びに向かう力・人間性等について示されていないことから、第1学年の目標(3)及び「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」に該当する学習指導要領の内容を参考にして作成する。</u>

### (2)題材の評価規準の設定

題材の目標と内容のまとめりごとの評価規準(例)を参考にする。「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の巻末資料に「内容のまとめりごとの評価規準(例)」が示されています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、 <u>美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。</u> <b>技</b> 水彩絵の具や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて <u>工夫して表している。</u> 題材の目標が具体的に設定できていれば、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」については、文末を「～している。」に変えるだけで、評価規準を設定することができる。	<b>発</b> 花を見つめ感じ取ったことや形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、 <u>画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</u> <b>鑑</b> 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、 <u>見方や感じ方を広げている。</u>	<b>態表</b> 美術の創造活動の喜びを味わい <u>楽しく花の美しさや生命感などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする学習活動に取り組もうとしている。</u> <b>態鑑</b> 美術の創造活動の喜びを味わい <u>楽しく花の美しさや生命感などを基に見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</u> 「主体的に学習に取り組む態度」は、表現と鑑賞それぞれに分けて示すことで、評価がしやすくなった。

### (3)指導と評価の計画(7 時間)

※第3編「事例1」を参考に作成(一部抜粋)  
 ※表内の吹き出しは、補足説明です。

知 Cの生徒をBにするための手だてが必要と判断するための評価規準  
 =「指導に生かす評価」

知 観点別評価A・B・Cを記録して残すための評価規準  
 =「総合的な評価」(※)

※第1次で暫定的な評価をし、第2次の状況を見て修正を加えられるようにするために、各段階で規準を位置付けています。

	●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等	
第一次	<b>1.発想や構想 (3 時間)</b> ●作者の心情や意図に応じた多様な表現について考える。 ・「花」をテーマにした作品を鑑賞する。 ● <b>主題を生み出す。</b> ・それぞれの生徒が鉢植えの植物を選び、その花を選んだ理由を考える。 ● <b>主題を基に構想を練る。</b> ・生徒が生み出した主題を基に、画面全体と花や葉との関係を考え、創造的な構成を工夫し構想を練る。	知		態表	最終的に目標を実現するために、それぞれの段階で「題材の評価規準」を位置付け、学習のねらいが実現できていない生徒を見取り指導し、一人ひとりの生徒が段階を追って確実に学習を進められるようにする。例えば、アイデアスケッチ段階の発想や構想では暫定的に「おおむね満足できる」状況(B)等を評価し、完成が近付いた時点で再度評価を行い、最終的に授業外での完成作品で評価を確定するようにする。	〔態表〕 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとして、主題と表現の工夫について考えようとする意欲や態度を見取り、できていない生徒に対して主題の内容から作品を再度見つけさせるなどの指導を行う。【活動の様子、ワークシート】 〔知〕 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【ワークシート、発言の内容】 (中略) 〔発〕 ここでは生徒が、主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っているかどうかを暫定的に評価し、第二次で再度評価を行う。 【ワークシート、アイデアスケッチ】 〔態表〕 楽しく発想や構想の活動に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、生み出した主題をよりよく表すために心豊かに構想しようとする態度を評価する。 【活動の様子】
第二次	<b>2.制作 (3 時間)</b> ●水彩絵の具の可能性を試す。 ●発想や構想を基に自分の表現意図に合う表現方法を工夫し表す。	技	発	態表	〔図〕 水彩絵の具の生かし方などを身に付けられているかどうかや、様々な表し方を試して多様な表し方を身に付けているかどうかを見取り、できていない生徒には他の生徒の試作を紹介するなどして工夫について考えさせるような指導を行う。【試作の作品】 第一次で「形や色彩などが感情にもたらす効果や全体のイメージで捉えること」について美感的な理解をしていれば、そのことは作品にも表れてくると考えられるため、第一次の〔図〕の評価は「指導に生かす評価」のみとし、授業の後半で完成が近付いた時点で作品やワークシートなどから意識して表現できているかを〔図〕と〔図〕を合わせて一体的に評価している。(〔知〕・〔技〕の総合的な評価) 〔知・技〕 作品から水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表しているかなどを見取るとともに、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解していることを併せて見取り、〔図〕と〔図〕を〔知・技〕として一体的に評価する。(作品、アイデアスケッチ、ワークシート)	
第三次	<b>3.鑑賞 (1 時間)</b> ●生徒作品や美術作品などから、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。	知	鑑	態鑑	〔鑑〕 鑑賞 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることなどができているかどうかなど、取り組み態度とをそれぞれ見取り、できていない生徒に対して主題から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート、活動の様子】 〔態鑑〕 楽しく作品を鑑賞し、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとして、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしていたりしているかどうかを評価する。 【活動の様子】	
授業外	<b>&lt;題材が終了後&gt;</b> ある程度、造形的な視点については理解しているものの、創造的に表す技能が十分に身に付いていないことで完成作品からだけでは〔図〕が見取れない生徒がいることも考えられるため、授業外において、発想や構想の学習で作成したスケッチや、鑑賞活動でのワークシートを再確認する。 また、〔図〕の観点からも、作品完成後、授業外に完成作品をワークシート等と見比べながら〔図〕・〔図〕を一体的に再確認し、必要に応じて修正する。	知・技	鑑	発	第三次の鑑賞活動においては、学習活動の観察を中心に〔鑑〕・〔態鑑〕の評価規準を、生徒の学習の改善や教師の指導の改善につなげるために用いながら授業を行います。第三次は、〔態鑑〕の評価のみを確定し、〔図〕の評価は授業外のワークシートの記述等から評価する。 発想や構想についても、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り、必要に応じて修正する。	

#### 事例における観点別学習状況の評価の総括について

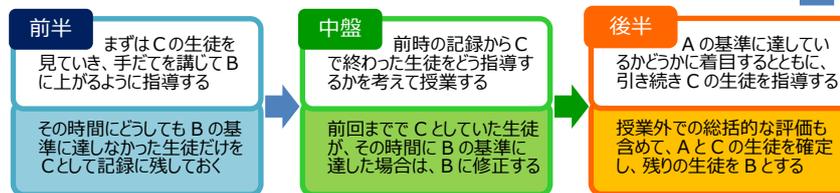
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
態表	〔知・技〕 (全時間)	〔発〕 第一次及び第二次 (6 時間)	〔態表〕 第一次 (3 時間)
態鑑		〔鑑〕 第三次 (1 時間)	〔態鑑〕 第二次 (3 時間)
			〔態鑑〕 第三次 (1 時間)

「造形的な視点」を豊かにするための知識と「創造的に表す技能」を一体的に総括して評価します。

本題材の目標では、表現に関する資質・能力の育成に重点を置いているため、主題を基にどのような構想を練ったかが重要であると考慮し、〔図〕に重み付けをしています。

表現や鑑賞の活動を通して、ある程度継続的に実現していることが大切なので、表現と鑑賞の場面において評価した結果を同等に扱います。

#### 題材を通した観点別評価の見取り方の流れ



観点別の学習状況に基づき、右上図のような重み付けをして評価を確定させます

すべての観点において、一人ひとりの生徒がそれぞれAなのかBなのかCなのか、という見取り方をするのではなく、左図のような流れで評価をしています。  
 題材の前半では、Aの基準に達する生徒が出てくることは考えにくく、授業の中盤から後半では、徐々に高いレベルの生徒が出てくるのでAも見取れるようになってきます。  
 基本的には、AとCを見取り、あとはBであると評価します。割合的にはBが多くなりますが、まず、Cの生徒をしっかり指導することを意識するのが大切です。